

## 第76回室蘭市行政改革推進委員会 会議録（要旨）

日時：令和3年11月26日（金）15時～16時30分

場所：室蘭市役所本庁舎2階3号会議室

出席委員：永井会長、森川副会長、山田委員、松田委員、三木委員、赤石委員、塚谷委員、安藤委員

事務局：小泉副市長、和野総務部長、奈良企画財政部長、太田総務部職員課長、佐竹企画財政部財政課長、大石同財政課長補佐、福島総務部行政マネジメント推進課長、中島同行政マネジメント推進課長補佐、白川同行政マネジメント推進係主事

### 議題

- (1) 室蘭市行政改革プラン2022（素案）について
- (2) 公共施設適正化の推進について

### ●議事（1）及び（2）について

#### ○A 委員

- ・公共施設のあり方について、利用団体との意見交換の方法は。
- ・利用団体に聞けば、現状よりもっといいものを求められ、お金がいくらあっても足りないということになるのでは。

⇒福島行政マネジメント推進課長

- ・具体的な時期や方法は決まっていないが、本日の資料をベースに説明する。
- ・「財政の見通し」の状況から、将来的な公共施設の縮減が必要であり、できるだけわかりやすい基準で線引きをすることでこういう優先順位になる。
- ・これで決定ということではなく、我々の考え方と、実際に施設を利用している方の様々な意見を踏まえて、話し合う場が必要と考えている。

#### ○A 委員

- ・市民説明の方法は。

⇒福島行政マネジメント推進課長

- ・これも具体的に決まっていない。
- ・公共施設の現状が伝わっていないというご指摘も頂いているため、例えば広報誌等で市の考え方をお知らせしたうえで、意見交換の予約を受けたり、町会への説明などができればと思う。

#### ○A 委員

- ・類似施設が少なければ複合化も難しいと思うが、文化センターの管理棟などは類似施設があると思う。貸館機能であれば中小企業センターやサンライフなど。
- ・これから人口が減ってくるので、建て替えるのであれば、類似施設は集約化の検討が必要になると思う。
- ・広域連携の話で、例えばサンライバスキー場やマリパークの築年数、建替えの予定などは聞いているか

⇒福島行政マネジメント推進課長

- ・予定は確認していない。
- ・マリパークは純粋民間であり、建替計画の情報などは得ていない。

#### ○B 委員

- ・文化センターは、立地適正化計画でも中央地区における大きな役割を持っている。
- ・将来的に見たら、ホールは検討の余地があると思う。
- ・一方、管理棟は、以前あった労働会館や女性センターが廃止されていったことで、(中央地区の)貸館は文化センターだけになっており、このまま管理棟までなくなったら、地域の文化や教育など、様々な場面で会合を開く場所がなくなってしまうのではないだろうかという不安、不満が市民から出てくるのではないか。
- ・10年近く前にアークス中央店ができた時に、3階部分を赤字覚悟の格安の料金で提供してくれたことで、日中は地域の文化や教育で利用されるようになった。地域の企業が貢献してくれている。
- ・行政も、施設がなくなる話だけではなく、「将来的にはこういうものも利用できますよ」ということを、例えば科学館図書館や入江体育館を地域に開放する話なども聞いているが、地域住民が困らないような、いろいろな方法を考えてもらう必要がある。

⇒福島行政マネジメント推進課長

- ・これから利用団体と話をするなかで、代わりにこういうことができるかなどの議論をする必要がある。対応を検討させていただく。

#### ○C 委員

- ・文化センターについて、市内にも貸館はたくさんあるが、中央町、港南町、祝津町、絵鞆町の人の中島に来るのに時間がかかる。
- ・市民活動センターも港湾部庁舎(海岸町)から中島町に移ったが、中央町や港南町の利用者からは遠くて行けないという声も多く、同じような機能であったとしても、地区の適正配置はあると思うし、文化センター管理棟の貸館機能は利用も増えているということなので、ただ廃止とはならないと思う。

- ・ホールについては、市民会館は予約が取れないという声があり、文化センターも5割使っているということがわかったが、入場者数が500人以上のイベントはそれほどでもなく、これから人口が減っていくと考えると、1,300席の大ホールをそのまま建て替える、というデータではないという印象を持った。
- ・ただ、市民会館のホールは取りづらいということなので、文化センターのホールをなくしてしまって、文化的な活動ができないということにならないようお考えいただければと思う。

⇒福島行政マネジメント推進課長

- ・今日の資料は「優先順の基準」と「財政負担抑制の目安」を掛け合わせた時に、このくらいの規模感で考えていかなければいけないということを共有するもの。
- ・実際に利用者への説明の際は、単純に「残しません」という話ではなくて、いろいろご意見をいただきながら検討を進めていく。

○C 委員

- ・室蘭市の財政が厳しいということが一般市民に伝わるよう、見せ方を検討したほうがよい。

⇒福島行政マネジメント推進課長

- ・市民の方にできるだけわかりやすく伝わる資料作りを工夫していきたい。

○C 委員

- ・広域連携の可能性が示されているが、水族館の機能はただの観光施設ではなく、子育て世代にやさしい遊び場だと思うので、マリンパークと同じ機能ではないと思う。
- ・水族館は近くにあって安く楽しめることが求められる場所であるため、人口が減っても利用率が落ちないのだと思う。
- ・市民意見をしっかり入れて検討してほしい。

⇒福島行政マネジメント推進課長

- ・水族館は議論が混同しがちで、収益を生み出す観光施設の機能なのか、公園や遊び場の機能なのか、2つの側面があると思う。
- ・観光課が実施したアンケートでは、思っていたよりも市外の方が来ているというデータもあった。
- ・現状の使われ方や今後のニーズによって、水族館周辺のエリアに必要な機能が大きく変わっていくため、今後整理して検討を進めなければいけないと思う。

○C 委員

- ・財政負担抑制の目安であるが、だんパラが運営管理費も建替費も安く見えるため、これなら他の施設を減らしてだんパラを残すという意見も出てくると思う。

⇒福島行政マネジメント推進課長

- ・だんパラは他の公共施設に比べて金額が割と少ないというのは確かにある。
- ・2040年に向かって2億円規模の縮減という話のなかで、実際には維持管理費は3・4グループで言っても2億までは到達していない。
- ・これくらいの規模感で、将来に向かって公共施設の経費を抑えていかないと財政的には厳しいと考えている中で、グループで考えると、3グループくらいまでのあり方を考えなければならない。
- ・その金額の多寡によって、極端な話、2億1千万ならよくて、1億9千万ならダメだとか、そういう話ではなくてまずは「規模感」をお伝えするもの。
- ・実際、1億5千万くらいの資料としかなくてないので、やはりもっと考えていかなければいけないということはお知らせしていかなければならない。

○C委員

- ・行政改革プラン2022で、職員数を減らしていくという目標は仕方ないと思うが、職員数が少なすぎて大変ではないかと思う。
- ・仕事が大変そうな職員を見てきているので、やる気を落とさないような進め方をしてほしい。

⇒太田職員課長

- ・職員数をこれから減らしていくという形でお示ししているが、頭数を単純に減らせれば良いというものではなくて、業務量をどう減らしていくか、ということとリンクさせなければならない。
- ・マイナンバー、DX、ICTの推進といったものとリンクさせながら、総体的な業務量を減らしていき、乖離しないように職員数を減らしていかなければいけない。
- ・組織力というか、定年が65歳になり、1回採用すると職員は40年以上在職するという状況のなかで、これから公務を目指す学生は少なくなっていく、人材確保が難しくなってくる時代がありえる。
- ・限られたなかで、より良い学生を採用し、かつ教育をしっかりし、少ない人間でも組織力をアップするような組織体制を作っていかなければならない。
- ・そのためには我々が育てていく力を身につけていく、なおかつ頑張っている職員をしっかり評価し、頑張れば報われる風土をつくっていかなければならないと考えている。

⇒和野総務部長

- ・公共施設について、我々以上に、利用されている市民の方はご意見があるかと思うので、改めて丁寧にお話を聞きながら、今後について考えていきたい。
- ・強く主張したいのは、お金がないからというものもあるが、5年後10年後に室蘭がどうなっているかということも頭に置きながら、今現状抱えているたくさんの公共施設

をこのまま維持していくのは到底困難だということ。

- ・10年前と比べて利用者数が1割減っているということは頭にいれなければいけない。
- ・今後10年間においても利用者が落ちていくということを踏まえながら、施設をどうするべきかということを考えていきたい。
- ・その際、施設を利用されている方もいるため、5年後10年後であっても、この施設が使えなくなったとしてもこういう代替策がある、例えば民間活力の活用、そういったことで、できるだけ市民に不安を与えないような進め方をしたいと思っている。

#### ○C 委員

- ・資料に出ている施設を全部廃止したいわけではないということをはっきり打ち出したほうが良い。一部の市民は、資料に出ている施設を全部廃止すると思ってしまう。

⇒小泉副市長

- ・今日お示したのは財政の目からの考え方であり、これは決定ということでもないし、活動自体を否定するということではなく、民間施設の活用を含めて活動の維持継続にも知恵を巡らせながら、施設のあり方を考えていきたい。
- ・「もう決定事項だから」ととられないように気をつけながら説明に臨んでいきたい。

#### ○C 委員

- ・公共施設を利用する意義は、コミュニティづくりや趣味を通じた「精神的な健康」と、家に閉じこもらずに体を動かす「身体的な健康」にあると思う。
- ・人口が減るから利用者が減る、ということだけではなくて、公共施設をもっと活用していただき、市民の精神的、身体的な健康を増進していくというような利用促進をすれば、利用者数はそんなに減らないのではないかな。
- ・たとえば、施設の利用者数が少ない時間帯は使用料を下げるとか
- ・きらんの利用率は通年で4割くらいかと思うが、総合福祉センターは昼の利用が多く、青少年研修センターは夜の利用が多かったため、複合化が成功した事例だと思う。
- ・市民活動に参加する機会をたくさん作って、社会に関わる機会を増やしていくのも必要だと思う。
- ・単純に利用者数が少なくなるから仕方がないというのは、ちょっと残念かなと思う。

⇒小泉副市長

- ・貸館にしても、空きコマの利用促進のPRであるとか、各施設管理者において人を集める自主事業であるとか、そういった利用促進もあるかと思うので取り組んでいきたい。

#### ○B 委員

- ・公共施設の「適正化」ということであれば、施設の廃止などにより、地域住民のサービ

スの低下をきたすときは、代替案も出したほうがよい。

⇒福島行政マネジメント推進課長

- ・ただ単に全部なくすという話ではなく、使っている方の活動の場を今後どうしていくのかということも、併せて議論させていただく。